

平成 29 年度(2017 年度)

日本特別活動学会 第 4 回 実践事例募集事業

優 秀 推 奨 事 例

事例番号 4-3

10 年間生徒会一人顧問奮闘

生徒と共に生徒会二大行事を改革する

岐阜県立多治見西高等学校 田山地 範 幸

実践テーマ	10 年間生徒会一人顧問奮闘 「生徒と共に生徒会二大行事を改革する」
実践区分 ○囲み	学級活動・ホームルーム活動 児童会・ <u>生徒会活動</u> クラブ活動 学校行事 その他(具体的に、)
実践事例の 背景、ねらい、 意義など	本稿は生徒会一人顧問が「学校行事で生徒の自主活動を活性化する」ことを目標にして十年間で築き上げた活動報告である。まず生徒会規則改定作業、委員会組織を編成し、生徒の活動しやすい組織作りをした。次にそれまでの二大行事(文化祭・予餞会(三年生を送る会))を生徒会執行部員と共に一新、改革した。さらに生徒会組織を機能させることにより、その他の様々な生徒が主体的に行事に参加でき、それによって自己肯定感を持ち成長した。十年間生徒の成長と共に生き、思うことは「教師は生徒と共に考え、活動すること、生徒のいいところを引き出す仕事である」ことではないか。生徒会顧問はプロジューサーであり、生徒会活動は全校生徒に夢を与えるポジションではないか。本稿は教師が生徒に寄り添い、創りあげる醍醐味の報告である。「必ず盛り上がる文化祭ガイド」(森俊二編・学事出版)に多治見西高校の文化祭の実践を掲載する。なお、実践事例募集規程第 3 条には原則 3 年以内と記載されているが、2008 年(平成 20 年)度から十年目の生徒会顧問活動として 2017 年(平成 29 年)度以降もこの活動は引き続いている実践事例と考え、応募書類をそろえて応募する。
実践の時期	平成 20 年 4 月 ~ 平成 30 年 2 月

10年間生徒会一人顧問奮闘 「生徒と共に生徒会二大行事を改革する」

I 1 はじめに

本稿は生徒会一人顧問が「学校行事で生徒自主活動を活性化する」ことを目標にして十年間で築き上げてきた活動報告である。まず生徒会規則改定作業、委員会組織を生徒の活動しやすい組織に編成した。次にそれまでの二大学校行事〈文化祭・予餞会(三年生を送る会)〉を生徒会執行部と共に一新、改革し、編成した生徒会組織の中で、様々な生徒が自己肯定感を持ち成長した。生徒の夢を与える活動に十年間かかったその報告である。

2 岐阜県私立多治見西高校の概要

①被服科、商業科、普通科、中高一貫と4つの科、②普通科の中に特別進学、国英、蛍雪の3つのコース、③1年212、2年239、3年225、全676名の私立高校である。

3 全校統一を図り、生徒会活動をしていくための問題点

①クラス代表議員の参加する議会は水曜日しか開くことができない。【科、コースで6限、7限授業があり、全校統一時間は水曜日のみ。さらに、水曜日にも進学ガイダンス、職員会議が入り、議会ができる日は限られてくる】②議会の成立が困難である。【被服科から蛍雪コースまでのいろいろな学科・コースまでの代表議員】

4 生徒会の顧問になって先ずやったこと三点

①昭和39年4月1日から改定されていない「生徒会会則」を全面改定した。②委員会組織を編成し、生徒会を機能させた。③愛知岐阜の学校の文化祭を見学し、映像化した。翌年の生徒対象目的で愛知岐阜の高校10～20校の文化祭を見て歩き、映像にまとめる【以降この活動は十年間続ける】。

5 生徒会執行部の意識改革 → 生徒会執行部員が新入生歓迎フェス(5月)、愛知私立中高サマーセミナー(7月)、オータムフェス(11月)、授業改革フェス(2月)に参加し続けて他校と交流する。この参加・交流は執行部員の大きな意識改革になった。結果、日本福祉高校、聖霊高校太鼓部指導の太鼓演奏や各講演会(澤田先生の講演、ちょんまげ隊・東北震災ボランティアの講演)を文化祭で生徒会執行部が企画した。

II 学校行事改革

1)文化祭

1 文化祭までの意識改革 次の四点を生徒会主催行事として開催し、意識改革をした。

(1)生徒会入会式・4月(対面式と入会式の合体式・全校生徒に文化祭の映像を見せての意識改革)。

(2)代表議員・文化委員講習会・4月(文化祭で何をやるか講座【含LHRで討議方法講座】)

(3)代表議員参加のリーダー研修会・4月(1泊2日)学年縦割り班で文化祭の出し物の研究発表。3年が2年を2年は1年を指導する。

(4)文化祭の各クラスの出し物の内容をプレゼンテーションして審査する。生徒と先生の審査で点数化してより良い企画にしていく審査会を開催する。

2 文化祭の内容改革・奇しくも創立101年目の出発の年と重なった。15点の改革。

- (1)文化祭のネーミング「西華祭」と決定【全校・全職員（学園事務員も含む）アンケート実施して決定】
- (2)開会式改革・「執行部で決定したことー開会式オープニングの太鼓演奏」
 - ・2年目同僚、3年目愛知サマーセミナー日本福祉、4年目聖霊高校、5年目転輪太鼓、6年目多治見太鼓、7年目以降は転輪太鼓に指導を仰ぐ。執行部員自身が盛り上げる。
 - ・その他、カウントダウンビデオ（文化祭の準備の様子のスライドショー）、CMビデオ（各クラスの出し物のCMを製作）を開会式で放映する。執行部員が撮影、製作する。
- (3)クラス企画改革 ステージ、展示鑑賞、パフォーマンス、体験部門の4部門から自由選択にする。10年間実施した結果、ステージ部門は3年生のクラスがやることが定着。
- (4)クラスTシャツ導入する。全クラス導入して文化祭開催中に着用する。
- (5)クラス旗行進導入（白布で執行部がクラス旗の布を製作、各クラスが独自のクラス旗を製作し、開会式で行進する）
- (6)文化委員・実行委員改革→文化委員・実行委員が全校企画で（でかい物を製作する）・海賊船（4年目）門製作（5年目以降）モザイクアート（デザインを全校に募集し、全校生徒1人1枚製作し、それを貼り合わせて飾る）（5年目以降毎年製作）巨大ピエロ製作。
- (7)審査員制度改革（精度を高めて審査項目を執行部員が設定、審査員を先生、生徒から選び、実施。5年目以降はほぼ全員の先生が審査員として活動）
- (8)テーマ曲・テーマ設定・テーマ画 → 全校から募集・アンケートにより決定。全校が目標設定できるようにした。
- (9)ビデオ・映像記録保存 → 10年前は文化祭の映像は全く存在していないため、この十年間毎年の文化祭の映像をまとめる。
- (10)西華祭新聞 → 各クラス・各部活の出し物の進行状況を執行部員が取材し、西華祭新聞にまとめる。毎年平均20号前後まで発行する。
- (11)パンフレット広告掲載 → 文化祭予算80万では足りない分を広告掲載で埋める【クラス企画二万×30クラス+部活出し物二万×15部活 → 赤字の分を埋める活動】
- (12)野外ステージ設置（3年目以降）5万円。ステージ単管機材を卒業生からの寄付。
- (13)閉会式の最後にテーマ曲を全校生徒で歌い、踊って終了。全校生徒写真撮影。
- (14)生徒会企画導入（3年目・澤田昭二先生の講演。5年目・東北震災・ちょんまげ隊角田寛和さん・滝高校沖野のぞみさんの講演。6年目・ファイヤーボーイズ（東海高校から伝授）。7年目以降ファイヤーボーイズ&ガールズ・プロジェクションマッピングを実施する）すべて執行部員・文化委員・実行委員の活動による。
- (15)出し物【遊園地シリーズ】ジェットコースター・メリーゴーランド・コーヒーカップ・ゴーカード・ウォータースライダー【ステージ】吉本新喜劇 ザ・マジックアワー 美女と野獣 魔法にかけられて るろうの剣心 ライオンキング【教室演劇導入】モザイクア

ート (13.5m × 13.8m という大きな壁画)

2) 予餞会 (3年生を送る会) 生徒会主催行事内容は執行部が考える。9点の改革。

・テーマを設定し、それに沿って、予餞会自体を「三年間の思い出 (過去) ~ 現在 ~ 未来 (夢) の構成を創作」し、2人の掛け合い漫才のように司会者進行の語りで展開していく。また、テーマ曲 (合唱曲) を設定。全員で最後に合唱し、盛り上げる。以下、予餞会は次のような構成で進めている。

(1) 造花のバラを製作、卒業生全員に贈呈するバラ贈呈式。

(2) 在校生全員が関わる会にする。1年はバラ作り、2年生は3年生の1教室飾りで関わる。

(3) テーマを設定。(1. 2年アンケートをもとに決定する) テーマを元に出し物を決定する。九年間のテーマの流れ (「感謝」→ 「未来へ」→ 「NEXT STAGE」→ 「Eternal Memory」→ 「Future」→ 「花束」→ 「飛翔」→ 「YELL」→ 「幸あれ」)

(4) 3年生の思い出の写真スライドショーを流す。→ 執行部員が卒業クラスの写真集めをしてスライドショーを製作する。

(5) 在校生の各クラス、各部活の出し物もテーマに沿って演出していく。

(6) 合唱曲を設定→ アンケートで決定した合唱曲を全員で歌う。

九年間の合唱曲の流れ (「空も飛べるはず (スピッツ)」→ 「キセキ (GReeeeN)」→ 「3月9日 (レミオロメン)」→ 「未来へ (kiroro)」→ 「ありがとう (ファンモン)」→ 「証 (フランプール)」→ 「道 / EXILE」→ 「奏 / スキマスイッチ」→ 「遙か【GReeeen】」)

(7) 全卒業生の自分の将来の夢を書いた紙を持って撮影する。またはビデオで自分の夢を語る。全卒業生の写真やビデオを流して、卒業生が全校生徒の前で最後に威張って、かっこよく夢を語り、卒業していくという意図のもとで執行部員が考えた企画。十年間続けた。

(8) 3年生の担任の先生の出し物で会を閉める。

(9) 予餞会の最後卒業生全員の名前のエンドロールを流し、予餞会の会を閉じる。

Ⅲ それぞれの生徒の成長変化・どの生徒にもドラマがある

(1) <文化委員会・実行委員会> 浅井、西川が自身で計画。生徒による生徒だけの活動で全長5メートル、幅2メートル、高さ3メートルの海賊船が完成した。

(2) <いろいろな場に参加、刺激を受ける> 愛知私立フェスに参加。川辺、曾根、山城の三人による「ファイヤーボーイズ」計200時間以上、練習により、文化祭で成功した。

(3) <先輩たちの活躍で刺激を受け、後輩へ「僕も私もやってみようではないか」> 文化祭でプロジェクションマッピング投影成功した。10数回の投影失敗も成功の糧にする活動。

(4) <予餞会・女子の活躍> 2. 3人の司会者が掛け合い漫才のごとく展開する型、テーマ曲を設定し、全員で最後に合唱する型を創った斎藤。「恋のフォーチュンクッキー」・「心のプラカード」で在學生、職員全員の参加のビデオを完成させた芝山。以上成長した生徒は普通の生徒である。その生徒にどのように寄り添い、働きかけていくかで生徒は思わぬ力を発揮し、成長をしていく。これら生徒会活動は全校生徒に夢を与える活動である。